

2024年（令和六年） 5月10日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週(4月25日～5月8日)の国際石油市場は軟化した。WTI先物は、パレスチナ紛争激化懸念の中、25日、反発の83.57ドルで始まり、週末26日続伸したものの、週明けからは、停戦交渉進展期待・緊張緩和に伴い5日続落、80ドル割れ、3日は78.11ドルまで下がった。二週目週明けの6日からは反発、反落を繰り返し、8日に78.99ドルで終わった。

また、中東産パイ原油/東京市場(6月渡し)も、前週(4月18日～4月24日)87.00～89.40ドルの範囲で推移したが、当週は、4月25日88.80ドル、26日89.50ドル、30日88.20ドル、5月1日85.50ドル、2日84.10ドル、7日83.80ドル、8日83.30ドルと推移した。

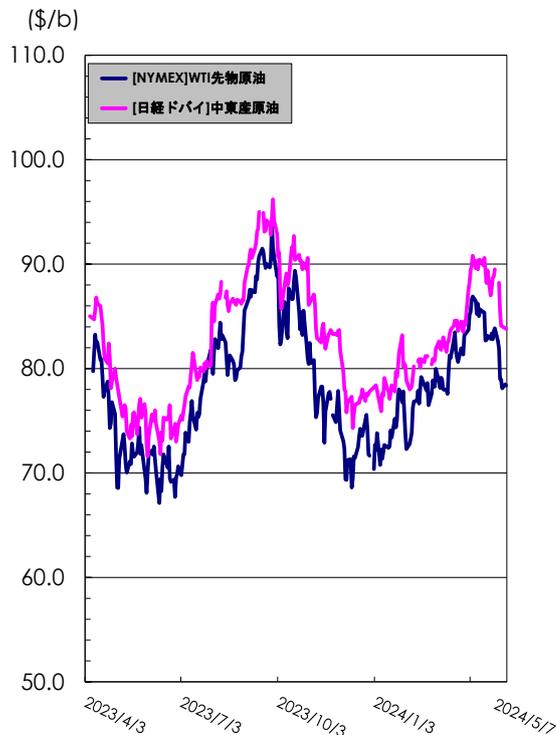
対ドル為替レート(TTM)は前週(4月18日～4月24日)154.46～154.86円の範囲で推移したが、当週は、4月25日155.53円、26日155.76円、30日156.90円、5月1日157.97円、2日156.14円、7日154.11円、8日154.95円となった。

財務省が4月26日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格79,968円で前旬比2,759円高、ドル建て84.37ドルで前旬比1.56ドル高、為替

レートは1ドル/150.69円。また、5月9日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格81,857円で前旬比1,889円高、ドル建て85.94ドルで前旬比1.57ドル高、為替レートは1ドル/151.43円。

そのような中で、4月30日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.3円安、軽油も同0.3円安、灯油は3円安(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.7円となった。5月2日～8日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は30.1円(補助金がない場合の次週予想価格204.9円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は19.9円)となった。また、5月7日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油は1円高(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.7円となった。5月9日～15日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は28.3円(補助金がない場合の次週予想価格203.1円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は18.1円)となった。

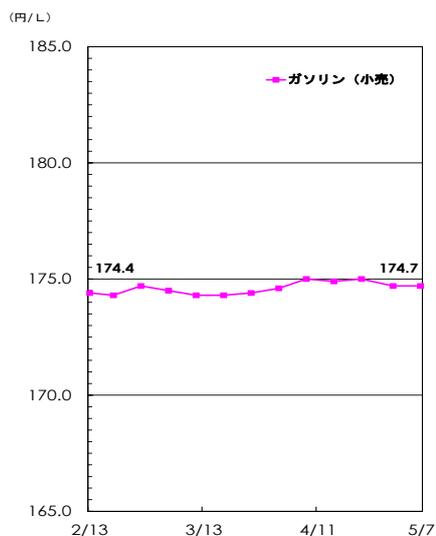
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/28 ~ 5/4	2,766 ▲ 36	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.9 ▲ 1.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/4	10,377 ▲ 55	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	5/7	83.80 ▼ -4.40	▲ 8.4
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/6	78.48 ▼ -4.15	▲ 5.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	85.94 ▲ 1.57	▲ 2.41
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	81,857 ▲ 1,889	▲ 12,409
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	151.43 ▼ -0.74	▼ -19.25
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/7	155.11 ▲ 2.79	▼ -18.97



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/28 ~ 5/4	915 ▲ 42	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	771 ▲ 21	▼ -
	輸出	"	42 ▼ -102	▼ -
	在庫	5/4	1,747 ▲ 101	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/30 ~ 5/6	83.0 ➡ 0.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部) 5/2	80.0 ➡ 0.0	▲ 4.6
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/7	174.7 ➡ 0.0	▲ 6.9

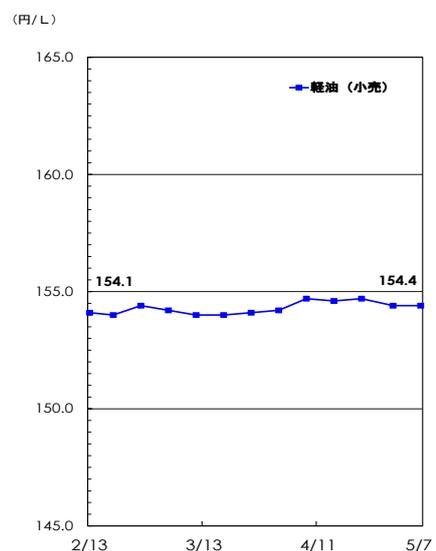
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

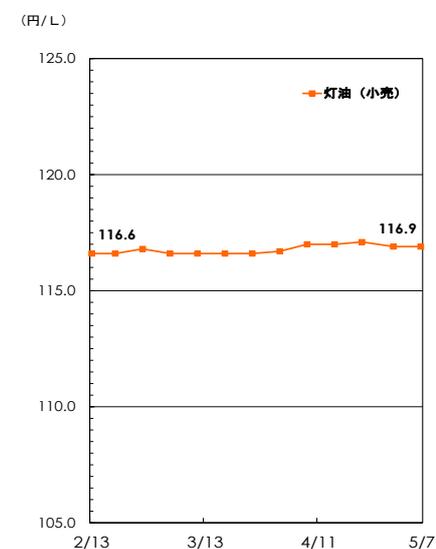
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/28 ~ 5/4	623 ▼ -66	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	436 ▼ -247	▲ -
	輸出	"	50 ▲ 50	▼ -
	在庫	5/4	1,445 ▲ 136	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/30 ~ 5/6	83.4 ▲ 0.1	▲ 6.5
		(TOCOM/中部) 5/2	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/7	154.4 ➡ 0.0	▲ 6.4

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/28 ~ 5/4	233 ▲ 99	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	129 ▲ 10	▲ -
	輸出	"	55 ▲ 41	▲ -
	在庫	5/4	1,266 ▲ 50	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/30 ~ 5/6	82.5 ▼ -0.5	▲ 7.5
		(TOCOM/中部) 5/2	82.0 ➡ 0.0	▲ 5.7
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/7	116.9 ➡ 0.0	▲ 6.0



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(4/18~4/24)のNYMEX・WTI先物市場は82.73~83.36ドルの範囲で推移した。

当週、4月25日は、イスラエルによるガザ地区ラファへの攻撃が予想、紛争の拡大懸念が高まり、反発した。ただ、米国の1~3月期の国民総生産(GDP)速報値の鈍化が上値を抑えた。6月物終値は前日比0.76ドル高の83.57ドル。

週末26日は、パレスチナ情勢の悪化、産油国への波及が懸念される中、米国内稼働中石油掘削機の減少が報じられ続伸した。6月物終値は前日比0.28ドル高の83.85ドル。

週明け29日は、パレスチナ紛争の停戦提案にハマスが前向きに検討中との報道で過度の緊張が後退、米利下げ先送り観測も高まり3営業日ぶりに反落した。6月物終値は前日比1.22ドル安の82.63ドル。

30日は、硬軟双方の米国経済指標が発表される中、パレスチナの緊張緩和、米利下げ先送り観測から、続落した。6月物終値は前日比0.70ドル安の81.93ドル。

5月1日は、プリンケン米国務長官がイスラエルを訪問、緊張緩和が進む中、米連邦準備制度理事会(FRB)は金利据え置きを決定、米国内の原油・ガソリン在庫は積み増しとなり、大きく続落、約1か月ぶりに80ドルを割り込んだ。6月物

終値は、同2.93ドル安の79.00ドル。

2日は、前日大幅安の反動の買い戻しが多かった半面、パレスチナの停戦期待、欧米の軽油需要の停滞懸念、米利上げの先送り観測もあって、わずかながら続落した。6月物終値は、同0.05ドル安の78.95ドル。

週末3日は、米国の雇用統計・サービス業景況指数の軟化、パレスチナの停戦期待の継続から、5日続落した。6月物終値は、同0.84ドル安の78.11ドル。

週明け6日は、パレスチナ紛争の停戦協議の難航が伝えられる中、サウジアラムコはアジア・欧州向けの6月積み原油価格の調整金を引き上げ、6営業日ぶりに反発した。6月物終値は、同0.37ドル高の78.48ドル。

7日は、ハマスの停戦案への合意が伝えられる中、停戦協議への楽観論・悲観論が交錯、ロシアが増産を示唆する一方、米国は戦略備蓄(SPR)の積み増し方針が伝えられ、6月物終値は、同0.10ドル安の78.38ドル。

8日は、停戦協議への期待感が高まるものの、米国原油在庫の予想外の取り崩しが報告、このところの安値への反動もあり、反発した。6月物終値は、同0.61ドル高の78.99ドル。

2 海外/米国石油市場

5月1日発表の4月26日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫は、原油が前週比730万バレル増と市場予想(110万バレル減)に反する積み増しで、ガソリンも同30万バレル増と市場予想(110万バレル減)に反する積み増しであった。また、5月8日発表の3日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比140万バレル減と市場予想(110万バレル減)を上回る取り崩しだったが、ガソリンは同90万バレル増、中間留分も60万バレル増と市場予想に反する積み増しとなった。市場は先行き需給の引き締まりを意識した模様。

EIAによると4月29日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比1.5セント安の1ガロン3.653ドル(150.8円/ℓ)と4週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比4.5セント安の1ガロン3.947ドル(164.7円/ℓ)と3週連続の値下がり。また、5月6日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.0セント安の1ガロン3.643ドル(151.0円/ℓ)と2週連続00続ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比5.3セント安の1ガロン3.894ドル(161.5円/ℓ)と4週連続の値下がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、4月26日時点で、前週比5基減の506基と2週ぶりの減少、また、5月3日時点で、前週比7基減の499基と2週連続の減少であった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年4月28日~5月4日に休止したトッパー能力は32.5万バレル/日で、前週に対して1.5万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は276.6万klと、前週に比べ3.6万kl増加。前年に対しては17.7万klの減少。トッパー稼働率は76.9%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては2.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.8%増、ジェット/17.4%減、灯油/73.6%増、軽油/9.6%減、A重油/15.4%減、C重油/20.9%増。今週のC重油の輸入は5.4万kl(前週比5.4万kl増)。軽油の輸出は5.0万kl(前週比5.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は77.1万kl(対前週2.8%増)と3週振りに増加した。ジェット

4.2万kl(対前週68.1%減)、灯油12.9万kl(対前週8.0%増)、軽油43.6万kl(対前週36.1%減)、A重油10.9万kl(対前週43.5%減)、C重油12.0万kl(対前週43.6%増)。

(単位: 千kl)

	今週 (4/28 ~ 5/4)	前週 (4/21 ~ 4/27)	前週比
ガソリン	771	750	▲ 21 (3%)
ジェット燃料	42	132	▼ -90 (-68%)
灯油	129	119	▲ 10 (8%)
軽油	436	683	▼ -247 (-36%)
A重油	109	193	▼ -84 (-44%)
C重油	120	84	▲ 36 (43%)
合計	1,607	1,961	▼ -354 (-18%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

5月4日時点の在庫は全ての油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは174.7万kl、前週差10.1万kl増。前年に対しては12.5万kl多い。

灯油は126.6万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては8.7万kl少ない。

軽油は144.5万kl、前週差13.6万kl増。前年に対しては4.4万kl少ない。

A重油は73.9万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては0.1万kl多い。

C重油は178.2万kl、前週差6.2万kl増。前年に対しては10.0万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (5/4)	前週 (4/27)	前週比
ガソリン	1,747	1,646	▲ 101 (6%)
ジェット燃料	773	743	▲ 30 (4%)
灯油	1,266	1,216	▲ 50 (4%)
軽油	1,445	1,309	▲ 136 (10%)
A重油	739	675	▲ 64 (9%)
C重油	1,782	1,720	▲ 62 (4%)
合計	7,752	7,309	▲ 443 (6.1%)

5 国内/元売会社製品卸価格

4月23日～29日のドル建て中東原油価格は値下がりしたが、為替レートは円安で、円建て輸入原油価格はほぼ横ばいであったものの、中東原油の調整金値上がりもあって、元売会社の卸価格建値は値上げになったものと見られる。上記コスト上げに、補助金減額分を考慮すると、5/2～5/8の実質卸価格は値上げとなった模様。

また、4月30日～5月6日のドル建て中東原油価格は値下がりがりしたが、為替レートは円安で、円建て輸入原油価格は値

下がった。元売会社の卸価格建値は値下げになったものと見られる。上記コスト下げにより、補助金減額分を考慮しても、5/9～5/15の実質卸価格は値下げとなった模様。

6 国内/製品小売価格

4月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の174.7円、軽油も0.3円安の154.4円、灯油は18%ベースで3円安の2,104円(1%ベースでも0.2円安の116.9円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油も8週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり15都県、横ばいは5県、値下がりが27道府県だった。全国最安値は岩手県の168.5円、その次は岡山県の168.9円であった。他方、最高値は長野県の184.6円。最も値上がりしたのは徳島県(同0.9円高)、最も値下がりは和歌山県(同2.2円安)だった。

また、5月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの174.7円、軽油も同横ばいの154.4円、灯油は18%ベースで1円高の2,105円(1%ベースでは横ばいの116.9円)。ガソリンは2週ぶりに値下がりが止まり、軽油も2週ぶりに値下がりが止まり、灯油は2週ぶりの値上がりだった。ガソ

リンについて、都道府県別には、値上がりが17都県、横ばいは7府県、値下がりが23道府県だった。全国最安値は岩手県の168.2円、その次は宮城県の169.1円であった。他方、最高値は長野県の184.3円。最も値上がりしたのは福島県と愛知県(同0.7円高)、最も値下がりは北海道(同1.4円安)だった。

次回調査時(5/13)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/7)	前週 (4/30)	前週比	直近高値
レギュラー	174.7	174.7	▶ 0.0	23/9/4 186.5
灯油	116.9	116.9	▶ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.4	154.4	▶ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第6号) の公表は、5/17 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。